

環境配慮個票

事業名	農地整備事業（中山間地域型）	地区名	三里	受益面積	18.8ha
関係市町村名	四万十市	予定工期	H28～H32		
総事業費	393,000千円	H29年度以降事業費	246,672千円		
総事業量	区画整理 18.8ha 農村生産基盤付帯設備 0.25ha	H29年度以降事業量	区画整理 10.8ha 農村生産基盤付帯設備 0.25ha		
マスタープランの区分	環境配慮区域	自然公園等の指定	無		
既存資料による希少種の情報の有無	H28環境調査資料				
周辺の環境	<p>四万十市の“日本最後の清流”と称される一級河川四万十川下流側に位置する旧中村市地域は、後川や中筋川をはじめとする四万十川の支流が流れ、その流域や上流部の山間地帯に集落が見られる。</p> <p>太平洋型の温暖気候であるが、三方が山に囲まれていることから気温はやや低く、西土佐地域などの山間部を中心に積雪が見られる。年平均気温は16～17℃、年降水量は全域で2,600mmを越え、多いところでは3,000mmに達する。</p> <p>水稻や果樹のほか、ショウガ、イチゴ、トマトなどの施設野菜、ナバナやシトウなどの露地野菜など多品目の栽培が行われている。</p>				
地区の環境の特性	<p>本地区は四万十川左岸沿いに展開する農地で、四万十川と県道川登中村線に挟まれた区域を計画対象エリアとしている。河川沿いが高く、県道沿いが低い丘陵地帯で、地区の平均地形勾配が1/50ときつく、最大で1/15から最小で1/962の勾配がある。地区内には小河川（三里川、上五郎川）が流れており、また地区近傍にため池（三里池）があり、水生生物の生息場所となっている。</p> <p>H28現地調査により、植物308種のうち重要種5種、昆虫107種のうち重要種4種、魚介類10種のうち重要種1種、両生類6種のうち重要種3種を確認。</p>				
配慮すべき事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 水田・湿地（耕作放棄地）に生育する植物重要種への配慮 2. 水田と用排水路に生息する水生動物重要種への配慮 				
配慮方針	<ol style="list-style-type: none"> 1. 植物重要種が生育する水田の「表土扱い」を別とし、埋土種子保全に留意する。 2. 水路の設置にあたっては、両生類が転落しても這い出せるような構造を検討する。 <p>また、水路内には泥が堆積するような水溜りを形成させ、水生生物の生息場所の創出も検討する。</p>				